

「調達活動における森林破壊・土地転換ゼロコミットメント」 進捗レポート（2023年度実績）

■ 対象範囲

ヤクルトグループの食品・飲料、医薬品および化粧品の生産に
必要な原材料調達に関わる国内外のすべての連結事業所

■ 対象原材料

- ① 紙・パルプ ② パーム油 ③ 大豆 ④ 乳製品



「調達活動における森林破壊・土地転換ゼロコミットメント」の進捗状況（乳製品を除く※）

森林関連 コモディティ・ 消費量	森林破壊・土地 転換がないと 検証された割合	説 明
紙・パルプ 9,645.7t	74.2%	<p>当社グループで製造・販売する製品に使用する紙製容器包装の多くは、FSC認証紙・PEFC認証紙あるいは再生紙への切り替え対応が進んでおり、コミットメントの対象範囲としては、60.1%が認証品、14.1%が再生紙でしたので、この割合を森林破壊・土地転換がないと検証された量の割合としています。 （ライセンス番号:FSC®N003728）</p>
パーム油 191.2t	0.0%	<p>2023年10月に、当グループは、パーム油の持続可能な使用に関する国際イニシアティブであるRSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil:持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟しました。2024年3月末時点では第三者認証を受けたパーム油の使用がありませんが、今後、RSPO認証パーム油への切り替え等を進め、パーム油の使用による森林破壊・土地転換の有無を検証する予定です。</p>
大 豆 1,787.7t	42.4%	<p>当社グループで製造・販売する調製豆乳・豆乳飲料や乳製品の一次原料として大豆を使用しています。そのうち、森林破壊・土地転換リスクが低い日本産の大豆の使用量が42.4%を占めており、この割合については、コモディティ使用に起因する森林破壊・土地転換がないと捉えています。</p>

※ 乳製品に関する進捗状況は現在情報収集段階であるため